令和元年８月２７日

# 印旛地区教育研修会

## 国語科「書くこと」分散会　　提案資料

研究主題

**自分の思いや考えを表現できる子どもの育成**

**～書き方を示す授業実践を通して～**

成田市立本城小学校

国語研究部

## Ⅰ　研究主題について

# 自分の思いや考えを表現できる子どもの育成
# ～書き方を示す授業実践を通して～

生活の中で他者との関わりは必要不可欠である。適切な人間関係を築くうえでも自分の思いや考えを伝える力は大切である。相手に伝えるためには，頭の中で思考するだけでなく，文字化することが多い。今後社会に出て行く子ども達にとって，「書く力」は重要であると考える。

国語科学習指導要領の目標においても，「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う」ことが掲げられている。書くこととしては，「伝えたいことを明確にする」「自分の思いや考えが明確になるように」「書く内容の中心を明確にし」「文章全体の構成や展開が明確になっているか」等といった内容が挙げられていることからも，相手を意識して自分の思いを伝えるための書く力が求められていることが分かる。

本校では，学校教育目標を「たくましく心豊かな子どもの育成」とし，目指す児童像を「よく考え自分から進んで学習する子ども」としている。そして，学習面の重点事項として「自分の思いや考えを文章表現できる子ども」と設定し，学校全体で取り組んでいるところである。

本校の実態として，書く活動に苦手意識をもっている児童は多い。自分の考えを書く場面では，考えがあったとしても文章で表現することが困難な状態である。また，何をどのように書けばよいのかが分からず，学習に対する意欲が低下しがちである。

そこで研究主題を「自分の思いや考えを表現できる子どもの育成～書き方を示す授業実践を通して～」と設定した。学習の見通しをもちやすくしたり，書き方のモデルを示したりすることで，苦手意識が強い児童にも，書く活動への意欲付けを図る。そして書く経験を積み重ねていくことで，自分の思いや考えを表現する力が育っていくのではないかと考え，研究を進めていくことにした。

## Ⅱ　研究仮説について

仮説１
　書く内容や書き表し方が明確になるような単元構成および授業の工夫・改善をすることで，言葉の特徴や使い方を身に付けながら「書く力」を高めることができるであろう。

手立て①「つけたい力」を習得させるための適切な言語活動の設定

・『生き物の○○のとくちょう』図かんを書こう（第３学年）
（伝えたいことを明確にして書く力）
（構成を考えて書く力）

・学校紹介パンフレットを作ろう（第６学年）
（図表・グラフを使って分かりやすく書く力）
（割り付けを工夫して書く力）

②学年に応じた教師の自作資料（モデル）の提示

・低学年は教師の自作資料（手本）から書き方を学ぶ。

・中学年は教師の自作資料（手本）から書き方の特徴をつかみ，自分の作品に活かす。

・高学年は教師の自作資料（添削用）から課題を見付けて訂正することで，自分の作品に活かす。

③単元構成の工夫

・モデルの提示による「書くこと」への意欲化と目的意識や相手意識の設定

・学習の見通しをもつための学習計画の作成

④授業の工夫

・視覚化を意識した板書・掲示物

・発達段階に応じたノート指導及びワークシートの活用

・交流活動を通して，自分の書いた物を見直す場面の設定

仮説２

書く活動を日常的に繰り返し取り組むことで，言葉の特徴や使い方に慣れ，思ったことや伝えたいことを表現できるようになるだろう。

手立て①全教科において，自分の考えやふり返りなど「書く」活動を意図的に位置付ける。

・ふり返りの文章化（自分の思いを表現する時間の確保）

・チャレンジタイム（短作文・視写）の充実（書き慣れるための時間の確保）

・学習につながる内容の取り扱い（言葉の特徴や使い方の指導）

・ことばの木ファイルの活用（語彙を広げる）

②朝のスピーチに向けた原稿作りや日記指導による書く活動の日常化

③学習環境の整備・活用

・俳句コンテスト（四季・新年）

・気持ちを表す言葉の掲示

④図書館司書との連携による単元に沿った図書の選定と活用

## Ⅲ　授業実践①　３年生

１　単元名　　『生き物の〇〇のとくちょう』をくらべよう

～『生き物の〇〇のとくちょう』図かんを書こう～

２　単元について

（１）つけたい力

| |
|---|
| 〇生き物の特徴の違いが伝わるように，文章の組み立てや書き表し方を工夫して書く力<br>（B　書くこと　イ）<br>〇生き物の特徴の違いを比べるための情報を集めて，伝えたい内容を明確にする力<br>（B　書くこと　ウ）<br>〇メモの書き方と，図鑑の文章の書き方の違いに注意しながら書く力<br>（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） |

（２）単元観

本単元は，「書く力」を高めるために，次のような３つのまとまりで構成する。

第一次では，教師の自作資料を提示し，学習のゴールを知るとともに，「自分達も生き物の『〇〇のとくちょう』図かんを作ってみたい。」という意欲化を図る。そして，そのために必要となる「つけたい力」や学習の進め方を確認し，単元全体の流れについてのイメージをもたせる。第二次では，児童が生き物の特徴を無理なく収集し活用できるよう，図書館司書の協力により準備した図鑑から，集めた情報を共有できる「生き物図鑑コーナー」を設置する。そうすることによって，図鑑のような情報量の多い資料から知りたいことの読み取りが苦手な児童も，意欲をもたせながら学習に向かうことができるのではないかと考えた。また，集めた情報を文章に起こす前段階である組み立てメモに書き換える活動を行う際にも，「書き方」を示しながら，児童が迷わずに書き進めることができるようなワークシートの工夫を考える必要がある。第三次では，第二次で書いた組み立てメモを基に，図書室に置く『生き物の〇〇のとくちょう』図かんを書く活動を行う。ここでも，児童が安心して図鑑を書き進められるように「書き方」を示していく。

本単元の言語活動として「『生き物の〇〇のとくちょう』図かんを書こう」を位置付けた。図鑑は，生き物の特徴の違いを短い文章でまとめることができるので，長文を書く経験が少ない３年生の児童には適している。また，情報収集→構成→記述の各段階において，児童が迷わずに学習に取り組むことができるような手立てを講じていくことで，本単元の「つけたい力」が身に付くのではないかと考える。

（３）仮説との関連

| |
|---|
| 仮説１　　書く内容や書き表し方が明確になるような単元構成および授業の工夫・改善をすることで，言葉の特徴や使い方を身に付けながら「書く力」を高めることができるだろう。 |

〇図鑑に書く内容や，書き表し方が掲示物を見れば分かるようにするために，教師の自作資料には「何を，どこに，どのような書き方をすればよいか。」を明確に書き示す。また，はじめ（青），中（黄色），終わり（ピンク）で色分けをすることにより，大きな３つのまとまりを捉えやすくする。

〇図鑑に書く内容を充実させるために，学級全体で図鑑から得た情報を共有し，生き物の特徴に関する情報を共有できるスペースを設置する。（例：「目」コーナー，「耳」コーナー，「口」コーナー等）

○図鑑に書く内容や書き表し方を明確にさせるために，以下のようなワークシートの工夫をする。
①「発見メモ→組み立てメモ→図鑑」の書き換えが迷わずにできるような工夫。
②比べた生き物の「特徴の違い」を児童が自分で見付けて書けるような工夫。

| |
|---|
| 仮説２　書く活動を日常的に繰り返し取り組むことで，言葉の特徴や使い方に慣れ，思ったことや伝えたいことを表現できるようになるだろう。 |

○メモから図鑑の文章に書き換えることができるようにするために,チャレンジタイムで常体から敬体に文章を書き換える練習をする。
○主体的に生き物の特徴を見付け，書くことができるようにするために，図書館司書と連携し,図書の選定と活用を図る。

3　単元の目標
○生き物の特徴の違いを比べるための情報を基に，進んでメモや文章を書こうとしている。
（関心・意欲・態度）
○生き物の特徴の違いが伝わるように，文章の組み立てや書き表し方を工夫して書くことができる。
（B書くこと（1）イ）
○生き物の特徴の違いを比べるための情報を集めて，伝えたいことを明確にすることができる。
（B書くこと（1）ウ）
○メモの書き方と，図鑑の文章の書き方の違いに注意しながら書くことができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4　指導計画（１０時間扱い）

| 学習過程 | 時 | ○目　標 | ・学習活動　□評価基準（方法） | 必要と思われる資料・教具 |
|---|---|---|---|---|
| 第一次 | 1 | ○「つけたい力」を知り，学習計画を立てて見通しをもつことができる。 | ・教科書を読み，学習の内容をつかむ。<br>・教師の自作資料を見て，意欲をもつ。<br>・「つけたい力」を知り，学習の見通しをもつために計画を立てる。<br>□生き物の特徴を書くことに，興味をもって臨もうとしている。（行動観察） | ・「つけたい力」<br>・学習計画表<br>・教師の自作資料<br>・特徴が分かる写真 |
| 第二次 | 2 | ○生き物の特徴を比べながら調べることができる。 | ・図鑑を読み比べながら，特徴をメモに書く。<br>・メモを模造紙に貼り，共有できるようにする。<br>□教師の自作資料を基にメモを書くことができる。（ワークシート） | ・模造紙<br>・メモ |
| | 3<br>4 | ○調べたい特徴を決め，発見メモを作ることができる。 | ・前時の掲示物を参考に調べたい特徴を選ぶ。<br>・発見メモを書く。<br>□生き物の特徴の違いを比べるための情報を集めて，伝えたいことを明確にすることができる。（発見メモ） | ・前時の掲示物<br>・教師の自作資料<br>・発見メモ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5<br>（本時）<br><br><br><br><br>6 | ○組み立てメモにまとめることができる。 | ・前時の発見メモを使い，組み立てメモを作る。<br>・書く順序を考えて「はじめ」「中」「終わり」のまとまりに分ける。<br>・それぞれの書き方を確認して組み立てメモを書く。<br>（調べたきっかけ）<br>（調べたこと）<br>（まとめ）<br>□生き物の特徴の違いが伝わるように，文章の組み立てや書き表し方を工夫して書くことができる。（組み立てメモ） | ・前時の掲示物<br>・教師の自作資料<br>・発見メモ<br>・組み立てメモ |
| | 7 | ○組み立てメモを自分で読み直したり，友達と読み合ったりして直すことができる。 | ・内容として足りないと思う点や不必要だと思う点を伝え合う。<br>・伝え合ったことを基に組み立てメモを修正する。 | ・教師の自作資料<br>・組み立てメモ |
| | 8<br>9 | ○組み立てメモを基に図鑑を作ることができる。 | ・特徴を分かりやすくするための工夫について確認する。<br>・比べたい生き物の特徴がはっきり分かるような写真を図鑑から探す。<br>・メモの書き方と図鑑の文章の書き方の違いに注意して書く。<br>□メモの書き方と，図鑑の文章の書き方の違いに注意しながら書くことができる。（図鑑） | ・教師の自作資料<br>・組み立てメモ<br>・図鑑 |
| 第三次 | 10 | 図鑑の完成 | ・完成した図鑑を読み合い，「よかったところ」「まねしたいところ」「初めて知ったこと」など感想を伝え合う。<br>□友達と図鑑を読み合い，感想を伝え合うことができる。（観察） | ・図鑑 |

5　本時の指導（5／10）

（1）目標

○発見メモを基に，文章の構成を考えながら組み立てメモを書こうとしている。

〔関心・意欲・態度〕

○発見メモを基に，「調べたきっかけ（はじめ），調べたこと（中），まとめ（終わり）」に合った組み立てメモを書くことができる。　〔B書くこと（1）イ〕

（2）授業の視点

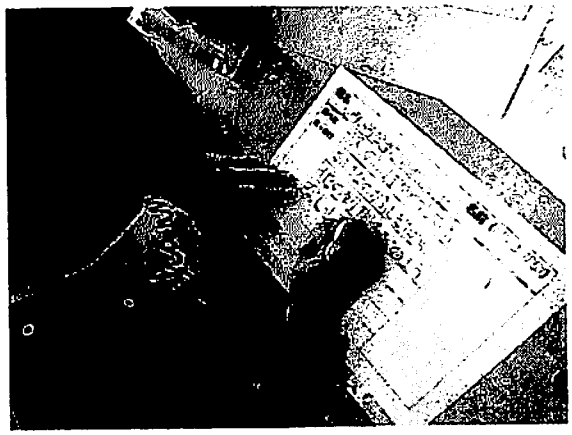
本時は，前時で作成した発見メモを基に，「調べたきっかけ（はじめ），調べたこと（中），まとめ（終わり）」に合った組み立てメモを書く時間となる。児童は，学級全体で集めた生き物の特徴に関する発見メモを見ながら，構成を意識して組み立てメモを書き進めていく。メモであることから書き表し方は常体であることも押さえていく必要がある。また，調べたこと（中）の部分では，部位の「つくり」を「はりのような口」や「かむための口」のように書き，部位の「はたらき」を「じゅえきなどをすう。」や「前足でこん虫などを食べる。」のような書き方で付け加えることで分かりやすいメモなることも確認する。書くことが苦手な児童に対する手立てとして「まねっこメモ」を用意し，□に言葉を当てはめて文章を作成できるようにする。書く能力に大きな差がある実態から，「書くことができる手立て」をなるべく多く用意し，児童が「自分で書くことができた！」と達成感を味わうことができるよう，丁寧に指導を進めていきたい。

（3）展開

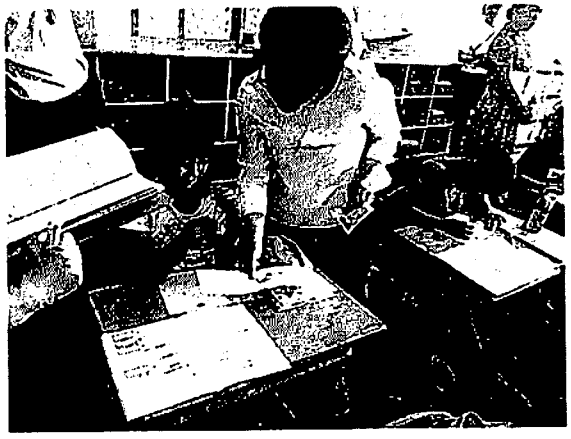
| 時配 | 学習内容と活動 | ●支援　◎評価〔観点〕（方法）<br>・評価に対する支援 | 資料 |
|---|---|---|---|
| 3 | 1　前時の学習を振り返り，本時の課題を知る。 | ●前時に書いた発見メモを見ながら，本時は構成を考えて組み立てメモを書くことを確認する。 | 教師の自作資料 |
| | ㊥発見メモを見ながら，組み立てメモを書こう。 | | |
| 5 | 2　自分が生き物の何について書くのかを確認する。<br>・こん虫の「口」について書くよ。<br>・動物の「耳」について書くよ。<br>・動物の「しっぽ」について書くよ。 | ●前時に書いたワークシートを見ながら，書きたいことを明確に意識付けさせる。 | |
| 3 | 3　組み立てメモについて確認する。<br>・大きく３つのまとまりがある。<br>・「はじめ」に書くこと<br>→調べたきっかけ<br>・「中」に書くこと<br>→調べたこと<br>・「終わり」に書くこと<br>→まとめ | ●教師の自作資料を見ながら３つのまとまり（構成）を意識させる。 | |
| 5 | 4　「はじめ」の部分を書く。<br>・校庭で見つけたチョウの口の形がストローにようだったから，他の虫の口はどうなっているのかが気になっ | ●前時に書いたワークシートを基に，「調べようと思ったきっかけ」を「はじめ」の部分に書かせる。<br>●教師の自作資料を参考にさせること | 拡大ワークシート（調べたきっかけ） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | た。<br><br>・メモの文末についての確認をする。 | で，「きっかけ」に書く内容を捉えやすくさせる。<br>●教師の自作資料を確認しながら，常体で書くことを理解させる。<br>◎発見メモを基に，文章の構成を考えながら組み立てメモを書こうとしている。<br>〔関心・意欲・態度〕　（行動観察） | |
| 5 | 5　友達と書いたものを伝え合う。 | ●友達の書いたものでよいと思った表現を参考に見直すよう助言する。 | |
| 5 | 6　教師の自作資料を見ながら「中」の部分の書き方の工夫を確認する。<br>【部位のつくり】<br>・「はりのような口」<br>・「かむための口」<br>【部位のはたらき】<br>・「じゅえきなどをすう。」<br>・「前足でこん虫などを食べる。」 | ●教師の自作資料を見ながら書き方の工夫＝「部位のつくり」＋「部位のはたらき」であることを確認し，例文を示すことで児童が進んで書くことができるようにする。 | 拡大ワークシート（調べたこと）<br><br>まねっこ短冊 |
| 12 | 7　「中」の部分を書く。<br>【セミの口】<br>・はりのような口をしている。木の樹液をすう。<br>【カマキリの口】<br>・かむための口をしている。前足でこん虫をつかまえて食べる。 | ●前時に書いた発見メモを基に，「調べたこと」を「中」の部分に書かせる。<br>・教師の自作資料を参考にしながら，「中」を書かせる。手が止まってしまった児童には，まねっこメモを渡し，□に言葉を入れてメモを完成させる。<br><br>〈本時の目標を達成するための手立て〉<br>・「はじめ」「中」「終わり」の部分でそれぞれ書くべきポイントを明確に示し，例文を示すことで自分から進んで書くことができるようにする。<br>〈支援を要する児童への手立て〉<br>・まねっこ短冊を提示し，□に言葉を入れて文章を完成させる。<br><br>◎発見メモを基に，「調べたきっかけ（はじめ），調べたこと（中）」に合 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | った組み立てメモを書くことができたか。<br>〔B書くこと（1）イ〕<br>(組み立てメモ) | |
| 5 | 8　友達と書いたものを伝え合う。 | ●友達の書いたものでよいと思った表現を参考に見直すよう助言する。 | |
| 2 | 9　次時の学習内容の確認をする。 | ●次時は，「終わり」に部分を書くことを確認させる。 | 学習計画表 |



「はじめ」の部分を個人で書く。
調べたきっかけを前時に書いたワークシートを基に書き進めていく。

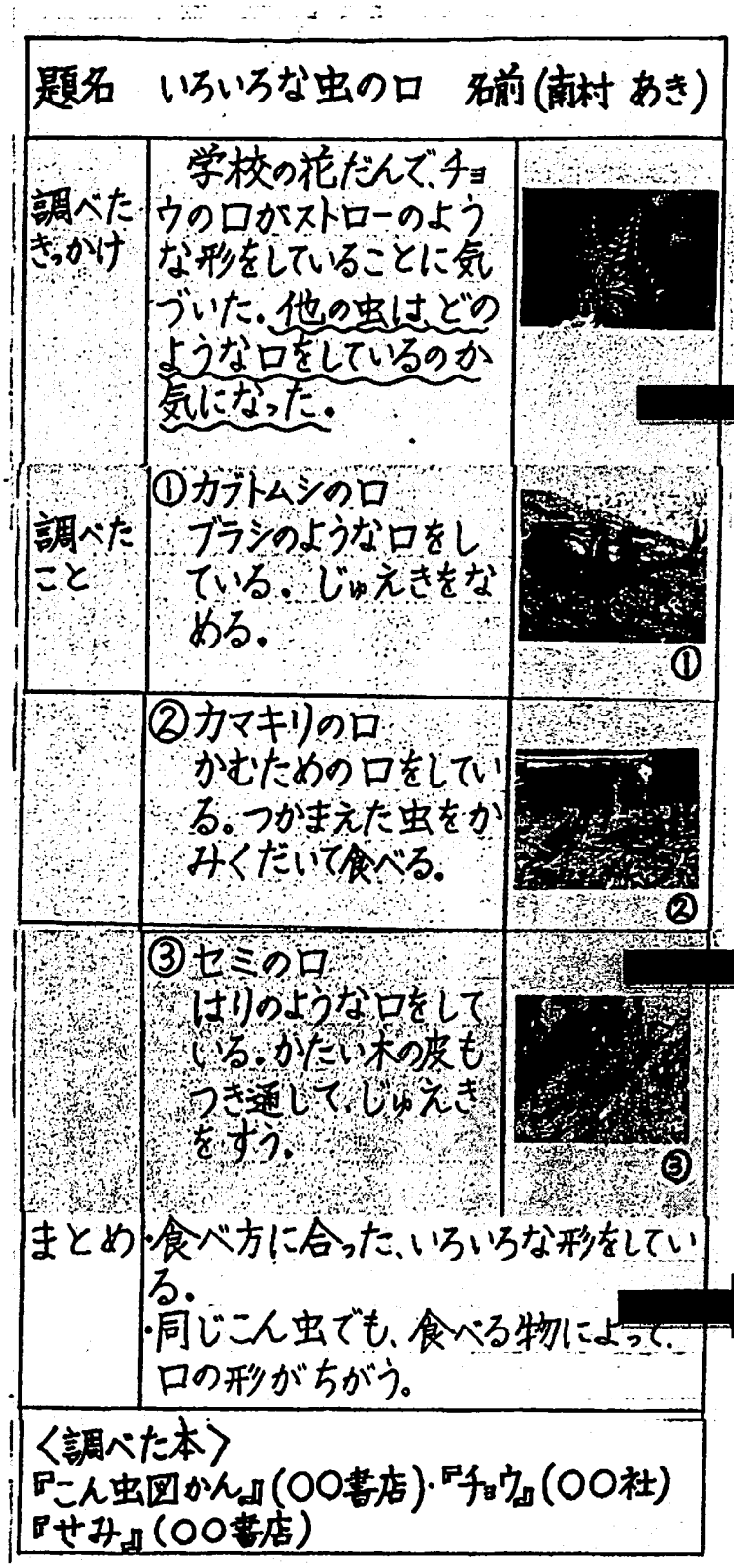


自力で書き進めることの難しい児童はまねっこ短冊を使いながら書き進めていく。

「中」の部分を書き終わった後，両隣の３人グループで書いた組み立てメモを読み合い，つくりとはたらきが書けているか確認し合った。

6　授業の実態

（1）教師の自作資料（ワークシートをかねる）

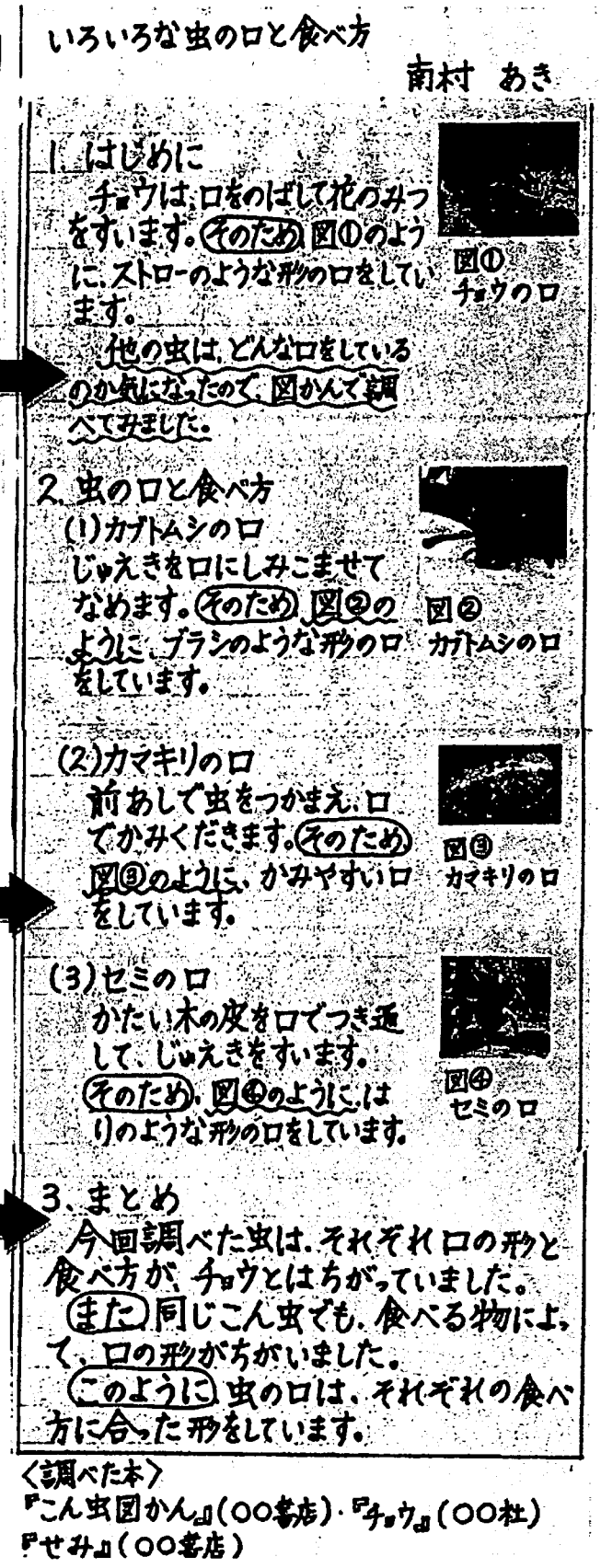


| 題名 | いろいろな虫の口　名前（南村 あき） | |
|---|---|---|
| 調べたきっかけ | 学校の花だんで、チョウの口がストローのような形をしていることに気づいた。他の虫はどのような口をしているのか気になった。 | |
| 調べたこと | ①カブトムシの口<br>ブラシのような口をしている。じゅえきをなめる。 | ① |
| | ②カマキリの口<br>かむための口をしている。つかまえた虫をかみくだいて食べる。 | ② |
| | ③セミの口<br>はりのような口をしている。かたい木の皮もつき通して、じゅえきをすう。 | ③ |
| まとめ | ・食べ方に合った、いろいろな形をしている。<br>・同じこん虫でも、食べる物によって、口の形がちがう。 | |

〈調べた本〉
『こん虫図かん』（○○書店）・『チョウ』（○○社）
『せみ』（○○書店）

↑

「組み立てメモの教師自作資料」



いろいろな虫の口と食べ方

南村　あき

1. はじめに
チョウは、口をのばして花のみつをすいます。そのため、図①のように、ストローのような形の口をしています。
他の虫は、どんな口をしているのか気になったので、図かんで調べてみました。

図①
チョウの口

2. 虫の口と食べ方
(1)カブトムシの口
じゅえきを口にしみこませてなめます。そのため、図②のように、ブラシのような形の口をしています。

図②
カブトムシの口

(2)カマキリの口
前あしで虫をつかまえ、口でかみくだきます。そのため、図③のように、かみやすい口をしています。

図③
カマキリの口

(3)セミの口
かたい木の皮を口でつき通して、じゅえきをすいます。
そのため、図④のように、はりのような形の口をしています。

図④
セミの口

3. まとめ
今回調べた虫は、それぞれ口の形と食べ方が、チョウとはちがっていました。
また、同じこん虫でも、食べる物によって、口の形がちがいました。
このように、虫の口は、それぞれの食べ方に合った形をしています。

〈調べた本〉
『こん虫図かん』（○○書店）・『チョウ』（○○社）
『せみ』（○○書店）

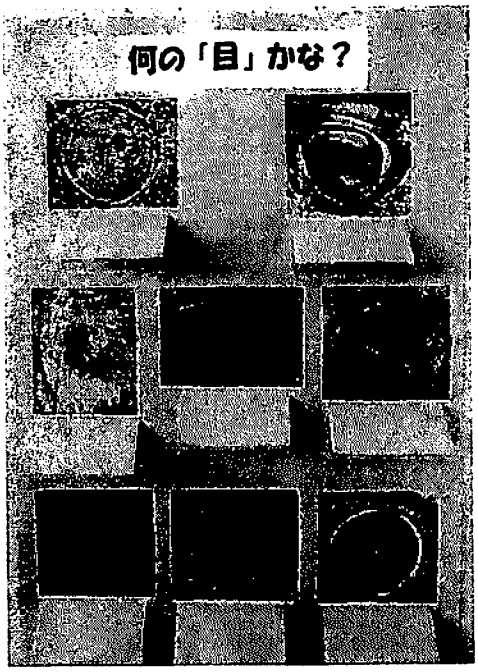
↑

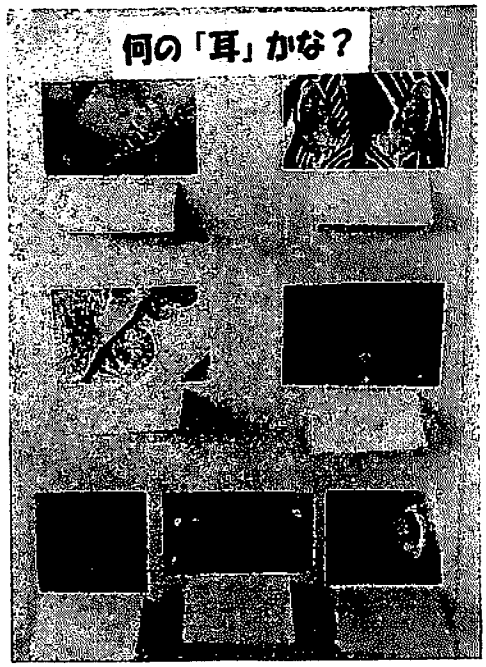
「図鑑の教師自作資料」

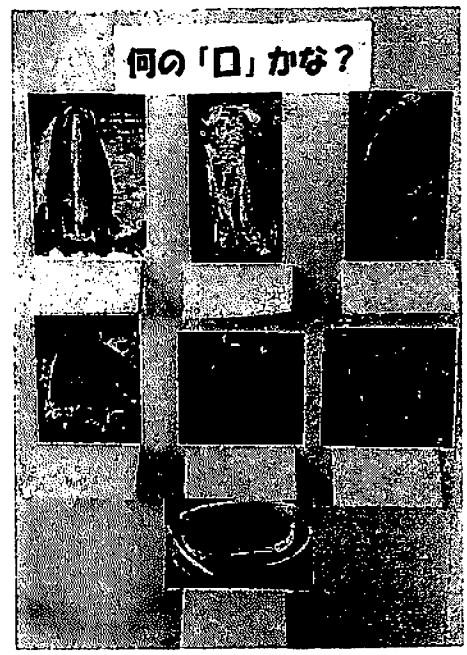
（2）単元の流れ

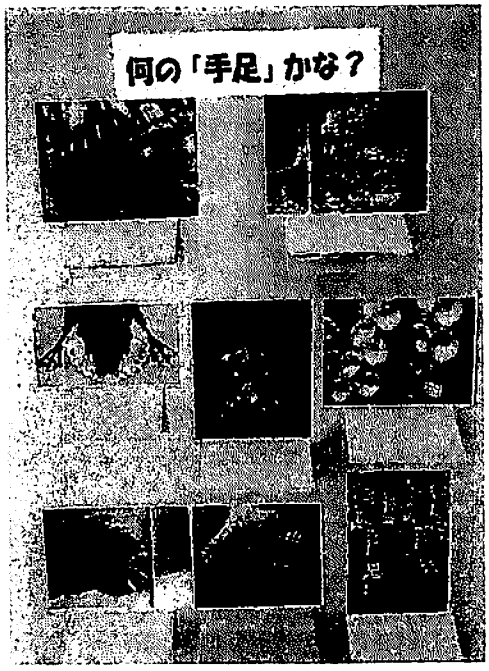
①クイズ→②メモ→③発見メモ→④組み立てメモ（本時）→⑤図鑑

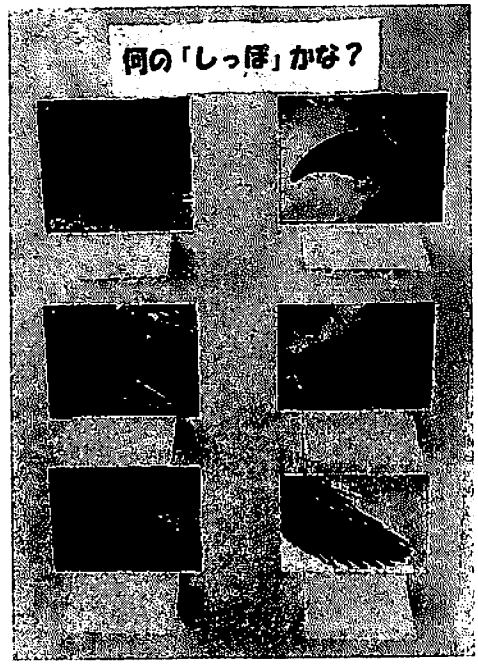
①クイズ　単元への意欲付けと情報収集のヒント

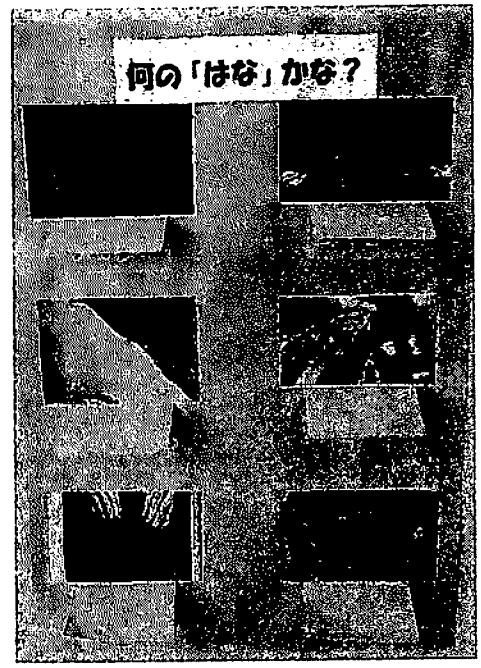


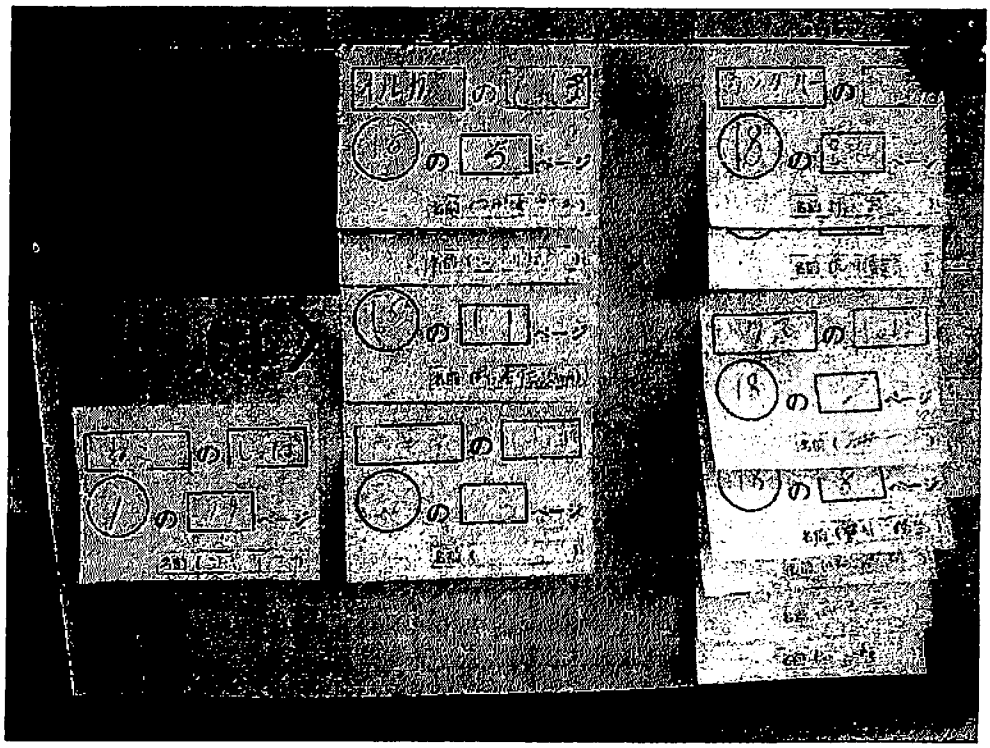



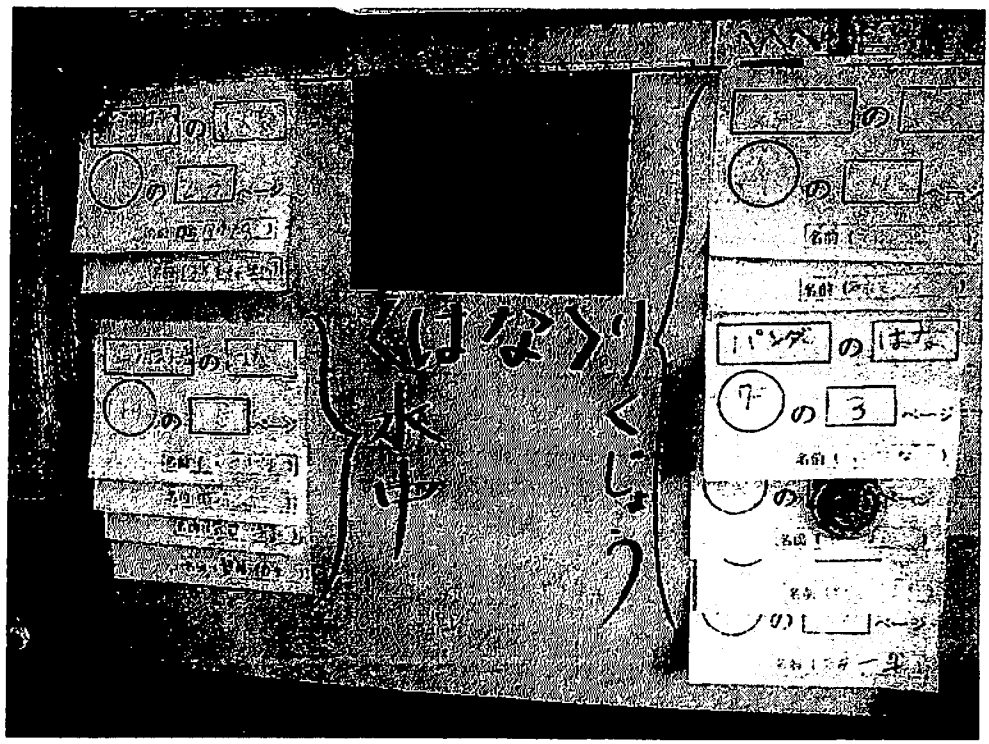




司書との連携によりたくさんの図書資料の中から動物の部位のクイズを作ることができた。付箋の下にはその部位を持つ動物の名前が書かれている。児童の反応もよく，学習への意欲付けとなった。また，どのような資料を探せばよいのかのヒントにもなった。

②メモ　　どの本の何ページを見れば知りたい情報があるか分かるメモ






司書との連携によりたくさんの資料を用意することができた。しかし中には必要な情報を探すことが難しい児童がいるため，情報が載っているページをメモに書き，学級全体で共有した。

③発見メモ　メモを基に図鑑に載せたい情報を集め，発見メモにまとめる。

学 調べる生き物とかくちょうをきめて、発見メモを作ろう。

① 調べる生き物を決めよう

| 生き物 | | とくちょう |
|---|---|---|
| コバンザメ | の | 目 |

② えらんだ理由を書こう

・サメがすきだし、サメはあまり見れないから。

③ くらべる生き物を三つ決めよう

| | | | |
|---|---|---|---|
| カメレオン | の | 目 | ( ) |
| ツバメ | の | 目 | ( ) |
| ハヤブサ | の | 目 | ( ) |

比べたい特徴を決める。

比べようと思ったきっかけを文章に表す。

比べる生き物を決める。

上のメモを基に生き物の特徴をくわしく調べ，発見メモを作る。
※特徴の様子とはたらきが分かるように書く。

**発見メモ**
名前（　　）

6/19
コバンザメ の 目

**とくちょうのようす**
・~~メ~~のような目をしていた。
び一玉
・いがいとちいさかった。

**調べた本**
『ともに生きる方法』

**発見メモ**
名前（　　）

6/20
ツバメ の 目

**とくちょうのようす**
・えものをとるため。
・目はキラキラしていて、小さい。

**調べた本**
『ツバメのくらし』

**発見メモ**
名前（　　）

6/20
カメレオン の 目

**とくちょうのようす**
・どこからでもえものをとれるようにできている。
・左目と右目をべつべつにうごかすことができる。

**調べた本**
『どうぶつの目』

④組み立てメモ（評価Ｂの児童）

題名 いろいろな生き物の目　名前（

調べたきっかけ

ぼくは、サメがすきで、サメは、水そく等なんかにいかないと見れないので、きになった。サメは、えものをとる事がうまいから、目が気になった。ほかの生き物は、どのような目をしているか気になった。

調べたこと

①カメレオンの目

左目と右目をべつべつにうごかすことができる。どこからでもえものをとれるようにできている。

調べたこと

②ツバメの目

目は、小さくて、キラキラしている。えものをとるためにある。

調べたこと

③ハヤブサの目

外がわが黄色で、中がわが黒色。えものをとるために大きい。

まとめ

- えものを見つけるために合ったいろいろな形をしている。
- 目は目でも、えものをとるための目が多かった。

調べた本

『どうぶつの目』『ツバメのくらし』『ハヤブサの四季』

⑤図鑑（評価Ｂの児童）

『いろいろな生き物の目』

3年　組　名前（　　）

1、はじめに

サメは、えものをとることがうまいから目が気になりました。そして、コバンザメの目は小さいので、ほかの生き物は、どのような目をしているか、気になりました。

コバンザメの目

2、生き物の目と使い方

(1)カメレオンの目

どこからでもえものをとるために図①のように、左目と右目をべつべつにうごかすことができます。

カメレオンの目
図①

(2)ツバメの目

えものをとるために、図②のようにキラキラしています。

ツバメの目
図②

(3)ハヤブサの目

えものをとるのに、すばやく見つけるために、図③のように、目は少し大きくて、中がわが黒色で外がわがオレンジ色です。

ハヤブサの目
図③

3、まとめ

今回調べた生き物は、それぞれ目の形と使い方がコバンザメとは、ちがいました。

また、同じ生き物でも、使い方によって、目の形や大きさがちがいました。

このように、生き物の目は、それぞれの使い方に合った形をしています。

（調べた本）

『どうぶつの目』『ツバメのくらし』『ハヤブサの四季』

※常体の箇条書きから敬体の文章表現に変える。

※図を全体から比べる部分の写真に変える。

（3）成果と課題

①児童の作品から

評価A→手本を基に自分の言葉で書いたり，書き表し方の工夫が見られたりする。

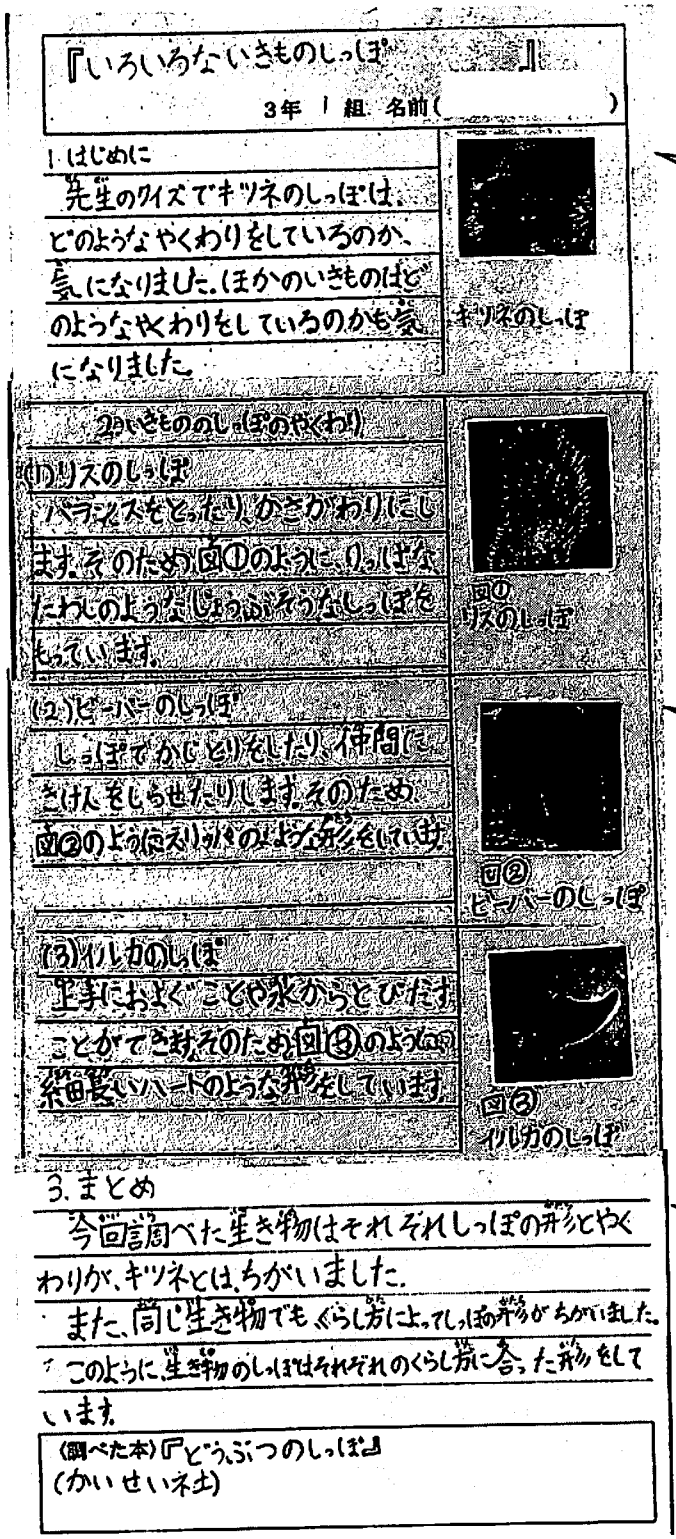
（生き物の特徴の違いの比べ方が明確である）

（自分の生活と身の回りの事象を関連付けてきっかけを書くことができた）

評価B→手本をそのまま使って作品を書いた。（既出）

評価C→手本をまねすることも難しく，まねっこ短冊を使って書いた。

【評価Aの児童の図鑑】



『いろいろないきものしっぽ』

3年 1組 名前（　　）

1.はじめに

先生のクイズでキツネのしっぽは、どのようなやくわりをしているのか、気になりました。ほかのいきものはどのようなやくわりをしているのかも気になりました。

キツネのしっぽ

2.いきものの しっぽのやくわり

(1)リスのしっぽ

バランスをとったり、かざがわりにします。そのため、図①のように、りっぱなたわしのようなじょうぶそうなしっぽをもっています。

図①
リスのしっぽ

(2)ビーバーのしっぽ

しっぽでかじとりをしたり、仲間にけんをしらせたりします。そのため、図②のようにスリッパのような形をしています。

図②
ビーバーのしっぽ

(3)イルカのしっぽ

上手におよぐことや水からとびだすことができます。そのため図③のように細長いハートのような形をしています。

図③
イルカのしっぽ

3.まとめ

今回調べた生き物はそれぞれしっぽの形とやくわりが、キツネとはちがいました。

また、同じ生き物でもくらし方によってしっぽの形がちがいました。

このように生き物のしっぽはそれぞれのくらし方に合った形をしています。

（調べた本）『どうぶつのしっぽ』
（かいせいネ土）

手本を基にして自分の生活の中から比べたいと思ったきっかけを書いている。

形と役割を写真と関連づけながら説明している。

形と役割を比べることで，それぞれの生き物の暮らし方に合った形をしていることに気が付いている。

【評価Ｃの児童の図鑑】

『いろいろなどうぶつのしっぽ』

3年 1組 名前（　　）

1、はじめに

ぼくがいつもちかよると犬のしっぽがふってきます。ほかのどうぶつは、どんなしっぽをしてるのか気になります。

犬のしっぽ

2、どうぶつのしっぽとはたらき

(1)チーターのしっぽ

図①のように長くてりっぱなしっぽです。自分のいる場しょを知らせるはたらきがあります。

図①
チーターのしっぽ

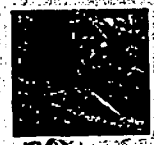
(2)クモザルのしっぽ

図②手にしているしっぽ。からだを休めたりごはんを食べたりするはたらき。

図②
クモザルのしっぽ

(3)カンガルーのしっぽ

図③さきがとがったつよそうなしっぽ。体をささえたりバランスをとったりするはたらきをしている。



図③
カンガルーのしっぽ

3、まとめ

今回調べた動物は、それぞれしっぽの形と使い方が犬とは、ちがいました。

また同じ動物でも使い方はちがいました。

このように動物のしっぽは、それぞれの使い方にあった形をしています。

〈調べた本〉

「動物のしっぽ」かいせいしゃ

教師が個別に支援しながら，まねっこ短冊を基に文章を書いた。

自力で書き進めた結果，常体から敬体への書き換えや写真との関連付けができていない。

自力で書き進めることが難しかったため，個別に支援し，まとめを書いた。

②児童の感想から

〈手本について〉

**3　組み立てメモをもとに，図かんを書くときのくふうはどんなことですか？**

ていねいごでかいたことや、そのため図①のようにとかいたことや、しゃしんをズームしたこと。

ちょっとだけ、ことばもかえたし、メモにはいっていないことばもつかったし、しゃしんもズームになた。!

**4　先生のお手本はどんな時に見ましたか？**

A．組み立てメモ　　B．図かん

C．どちらも見た　　D．どちらも見なかった

理由は？

まちがってないかかくにんするため。

A．組み立てメモ　　B．図かん

C．どちらも見た　　D．どちらも見なかった

理由は？図③ やりろいろなところをつけたすからどこにつけたすかをみた

・手本があることで，児童がスムーズに学習を進めることができた。
・図鑑を書くうえで必要な言葉（図③のように，そのためなど）を手本から見つけ出すことができた。
・常体と敬体の言葉の使い方を理解することができた。

〈学習を終えて〉

**5　できあがった図かんを見て，どんなことを感じましたか？**

うれしい気もちになった。
またやりたいな。という気もちに、
なった。

文章をこんなに書けたところに自分も、
ちょっとだけびっくりしました。

**6　今回の学習をとおして，これまでの自分よりも成長したと思うことはどんなことですか？**

まえは図かんとかなんて一人
でかけなかったけどいまはで
きるようになっている。

長い文章をかけるように
なった。次はもっと上手に
書きたいと思います。

・苦手意識をもっていた児童が，図鑑を完成させることで自信がつき，書くことへの意欲が高まった。

成果

○書き表し方を明確にすることにより学習内容が明確になり，児童が迷わずに図鑑作りに取り組むことができた。

○クイズを掲示することで，生き物について調べたいという意欲付けにつながった。

○図書館司書との連携により，数多くの図書資料から情報を集め，共有することができた。

○組み立てメモや図鑑という形式をモデルとして示すことにより，書き方を学びながら作品を作ることができた。

課題

●評価Ａに値する児童にとっては，書き表し方を明確にすることによって書き方が限定されてしまったことから，自由な発想も取り入れて書かせることも必要である。

●生き物の特徴を比べることに重きを置いてしまったため，理科的な学習になってしまった。比べ方を説明する文章の書き方を身に付ける学習を目指すべきであった。

## Ⅳ　授業実践②　６年生

１　単元名　　本城小学校を知ってもらおう　　～学校紹介パンフレットを作ろう～

２　単元について

（１）つけたい力

| | |
|---|---|
| ○読んでみたいと思われるように割り付けを工夫する力 | （Ｂ　書くこと　イ） |
| ○図表やグラフなどを用いて，学校の様子が伝わるように書く力 | （Ｂ　書くこと　エ） |

（２）単元観

本単元は，第一次では，遠山中学校区の他の小学校に向けて，本城小学校の紹介パンフレットを作ることを伝える。また，「添削用モデル」を基に，どのようにすれば本城小学校のことを分かりやすく伝えることができるかを話し合わせ，「つけたい力」を明確にする。第二次では，まず，第一次での話し合いを基に，「添削用モデル」を「よいモデル」（書くことイ及びエに沿ったもの）に直していく活動を通し，自分のテーマに取り組む際に活かすことができるようにする。次に，自分のテーマについて決めたり，情報収集したりする。第三次では，第二次で作った「よいモデル」や集めた情報を基に，紹介パンフレットを作成する。その際には，グループや全体で交流場面を設け，より分かりやすいパンフレットにしていく。

本単元の言語活動として「学校紹介パンフレットを作ろう」を位置付けた。学校紹介パンフレットを分かりやすいものにしていく活動は，書くことの指導事項のイの構成する力や指導事項エの書き表し方を工夫する力を付けることにつながりやすいと考える。また，次年度児童の多くが進学する遠山中学校区でそれぞれの小学校について紹介し合うことは，児童の意欲を向上させるとともに，本城小学校のことを分かりやすく伝えたいという思いを強くさせるだろう。

（3）仮説との関連

| |
|---|
| 仮説１　書く内容や書き表し方が明確になるような単元構成および授業の工夫・改善をすることで，言葉の特徴や使い方を身に付けながら「書く力」を高めることができるだろう。 |

○添削用モデルを提示し，それを直していく活動を通して，割り付けを工夫して書いたり，図表やグラフを用いて書いたりすることのよさに気が付くことができるようにする。

○第一次において「つけたい力」を明確にし，この単元を通してどのような力を付けるのかを意識させる。

○添削用モデルを３パターン用意し，グループや全体で共有することで，学びを広げたり，深めたりすることができるようにする。

○自分たちで作成したよいモデルを基に，紹介パンフレットの担当ページを作成する活動を行うことで，学んだ書き表し方の工夫を活用し自分のものとできるようにする。

| |
|---|
| 仮説２　書く活動を日常的に繰り返し取り組むことで，言葉の特徴や使い方に慣れ，思ったことや伝えたいことを表現できるようになるだろう。 |

○いろいろなパンフレットを用意し見せることで，使えそうな語彙を増やす。

○パンフレットの書き方に慣れるために，チャレンジタイムを活用し，図表やグラフを用いたり，割り付けの工夫を考えたりする練習に取り組ませる。

3　単元の目標

○本城小学校のことを伝えようと，進んで学校紹介パンフレットに書き表そうとしている。

（関心・意欲・態度）

○他校の児童に伝わるように，割り付けを工夫して書くことができる。（B書くこと（1）イ）

○他校の児童に伝わるように，図表やグラフなどを用いて書くことができる。

（B書くこと（1）エ）

○紹介パンフレットとその特徴について理解することができる。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4　指導計画（6時間扱い）

| 学習過程 | 時 | ○目　標 | ・学習活動　□評価規準（方法） | 必要と思われる資料・教具 |
|---|---|---|---|---|
| 第一次 | 1（本時） | ○分かりやすく伝えるためには，割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いて書いたりするよさに気が付くことができる。 | ・他校の児童に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかを「添削用モデル」をもとに考える。<br>□分かりやすく伝えるためには，割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いて書いたりすれば良いことに気が付くことができる。（ワークシート・発言）<br>・つけたい力について確認する。<br>・学習計画を確認する。 | ・添削用モデル<br>・拡大添削用モデル |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第二次 | 2 | ○添削用モデルを分かりやすく伝えるために，割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いて書いたりして書き直すことができる。 | ・前時の話し合いを基に，添削用モデルを分かりやすく書き直す。<br>□添削用モデルを分かりやすくするために，割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いたりして書き直すことができる。<br>（ワークシート） | ・つけたい力<br>・学習計画表 |
| | 3 | ○紹介パンフレットとその特徴について理解することができる。<br>○本城小学校について紹介したいことを進んで考えようとする。 | ・紹介パンフレットの特徴を確認する。<br>□紹介パンフレットとその特徴について理解することができる。<br>（ノート・発言）<br>・テーマや他校に伝えたいことを話し合う。<br>□紹介パンフレットの特徴を踏まえ，本城小について伝えたいことを進んで考えようとする。<br>（ノート・発言） | ワークシート<br>グラフ枠 |
| | 4 | ○紹介パンフレットを書くための情報を集めたり，整理したりする活動に進んで取り組もうとする。 | ・情報を集め，ワークシートに整理する。<br>□紹介パンフレットを書くための情報を集めたり，整理したりする活動に進んで取り組もうとする。<br>（ワークシート・発言） | |
| 第三次 | 5 | ○割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いたりして，分かりやすく書くことができる。 | ・集めた情報を基に，紹介パンフレットの自分のページを書く。<br>□割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いたりして，分かりやすく書くことができる。<br>（ワークシート） | FAX 原紙<br>グラフ枠 |
| | 6 | ○紹介パンフレットをよりよくするために，進んで交流をし，完成させることができる。 | ・交流を基に，紹介パンフレットを完成させる。<br>□紹介パンフレットをよりよくするために，進んで交流をしようとする。（ノート・発言） | |

5　本時の指導（1／6）

（1）目標

○分かりやすいパンフレットにするための書き表し方の工夫について進んで考えようとしている。
〔関心・意欲・態度〕

○割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いて書き表したりすることのよさに気が付くことができる。　〔B書くこと（1）イ，エ〕

（2）授業の視点

本時は，単元の1時間目にあたる。授業ではまず始めに，これからの学習活動に対する意欲付けが大切となる。本城小学校を紹介するパンフレットを作るということ，またそれを次年度に仲間となる遠山小学校と三里塚小学校に送ることを伝え，意欲化を図りたい。その後，添削用モデルを分かりやすいものにするためには，どうすればよいかを考える活動となる。今までの学習経験やグループや全体での話し合いを基に，割り付けの工夫や図表やグラフで表すことのよさに気が付くことができるように展開したい。授業の終末には，本時の学習から，つけたい力を考えさせ，次時以降の学習の見通しをもつことができるようにする。

（3）展開

| 時配 | 学習内容と活動 | ●支援　◎評価〔観点〕（方法）<br>・評価に対する支援 | 資料 |
|---|---|---|---|
| 5 | 1　単元の学習について知る。<br>・遠山小や三里塚小と学校紹介パンフレットの交換を行うことを知る。 | ●次年度遠山中学校に進学する仲間が学校でどのような活動を行っているのかを知ったり，伝えたりする活動であることを知らせ，意欲化を図る。 | 遠山小及び三里塚小6年児童写真 |
| 3 | 2　本城小の何を紹介したいか，アイディアを出し合う。<br>・行事について<br>・校舎について<br>・課外活動について | ●紹介したいテーマを挙げさせることで，学習のイメージをもたせる。<br>●実際に自分が書くテーマについては，先の授業で決めることし，考えておくよう伝える。 | |
| 5 | 3　本時の課題を把握し，見通しをもつ。<br>・「添削用モデル」を見て，学習問題を立てる。 | ●教師の自作資料が読みにくく，分かりづらいものであることに気付かせ，本時の課題を明確にする。 | 添削用モデル3つ |
| | 学 分かりやすいパンフレットにするには，どうすればよいだろうか。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 4　「添削用モデル」をどのように書き直せばよいかを見出す。<br>・個人→グループ(1枚にまとめる)<br>・数値の部分はグラフで表すとよい。<br>・表にまとめると見やすい。<br>・見出しをつけるとよい。<br>・伝えたいことの中心にスペースを割くとよい。<br>・図や写真を入れるとよい。<br>・配置を工夫するとよい。 | 〈本時の目標を達成するための手立て〉<br>・割り付けの工夫について，教科書のパンフレットと比較させ，気が付くことができるようにする。<br>〈支援を要する児童への手立て〉<br>・教師の自作資料（見本）を提示し，添削用モデルと比較することで書き方のポイントに気付かせる。<br><br>◎分かりやすいパンフレットにするための書き表し方の工夫について進んで考えようとしている。<br>〔関心・意欲・態度〕<br>（発言・態度） | |
| 13 | 5　どこの部分をどのように書き直せばよいか，全体で共有する。<br>・発表の共通点や相違点を確認し，相違点については，それぞれのよさについて話し合う。<br>①表やグラフで表すと分かりやすい。<br>②割り付けを工夫すると見やすい。<br>ア：見出しを付ける<br>イ：伝えたいことの中心にスペースを割く<br>ウ：図や写真を入れる<br>エ：配置を工夫する | ●②割り付けの工夫イの観点が出ない場合は，教師側から，それぞれのモデルの一番伝えたいことは何であるのかを考えさせる。<br>◎割り付けを工夫したり，図表やグラフを用いて書き表したりすればよいことに気が付くことができる。<br>〔B書くこと（1）イ,エ〕<br>（ワークシート） | 拡大添削用モデル |
| 3 | 6　本時の学習を振り返る。 | | |
| | ㊟分かりやすいパンフレットにするには，割り付けを工夫したり，図表やグラフを使って書き表したりすればよい。 | | |
| 1 | 7　今後の学習の見通しをもつ。 | ●次時は，本時の学習を基に添削用モデルを書き換える活動を行うことを伝える。 | |

6　授業の実態

（1）教師の自作資料　（添削用モデル３パターン）

図表やグラフを用いずに文章のみで書かれている。

本城小学校には収穫祭という行事があります。十月の中旬に本城小学校の畑で、なかよし班で育てたさつまいもを収穫します。

一つ目のみ力は、楽しいということです。体験した二〇人に収穫祭は楽しかったかどうかきいたところ、九〇パーセントの人が楽しかったと答えています。みんなで協力して育てたからこそ、収穫できたときにはうれしかったのでしょう。どの子も笑顔いっぱいにさつまいもをかかえていました。

二つ目のみ力は、重さコンテストがあるということです。それぞれの班でとれた一番大きなさつまいもの重さを競います。昨年度の一位は七班で一二五〇グラム、二位は五班で一〇二〇グラム、三位は九班で九八〇グラムでした。結果発表のときはとてもドキドキしました。

三つ目のみ力は、ほったいもを持ち帰ることができることです。一人二つずつ持ち帰ることができます。私の家ではスイートポテトをつくって食べました。

〈本城小の収穫祭について〉
・見出しをつけやすいように「1つ目・2つ目・3つ目」という項目を立てる。
・グラフや表を作ることができるように，アンケート結果で％を重さコンテストでランキングの数値がある。

本城小学校の体育館について紹介します。みなさんに体育館について知ってもらいたいことが三つあります。

一つ目は、たくさんの行事や活動などに使われているということです。式や集会はもちろんのこと、クリスマス映画会やバザーなどの行事などにも使われています。本城小学校で行われる行事のうち、体育館で行われる行事は全体の八十パーセントでした。残りの二十パーセントはグラウンドです。体育館はなくてはならない大切な場所です。

二つ目は、学習で使いろいろな道具があることです。体育館にある好きな道具についてきいたところ、一位がターザンロープ、二位がたつ球、三位がとび箱でした。

三つ目は、体力アップ大作戦の的があるということです。体育委員会がみんなの投げる力を高めるために作りました。休み時間にはたくさんの人が的当てゲームをやりに、体育館に集まってきます。

〈本城小の体育館について〉
・見出しをつけやすいように「1つ目・2つ目・3つ目」という項目を立てる。
・グラフや表を作ることができるように体育館で行う行事の割合や好きな道具のランキングがある。

本城小学校の運動部の活動にはミニバスケットボールがあります。六月と七月に練習を行い、夏休みには成田市交流ミニバスケットボール大会に出場しています。

バスケットボール部での練習は、次の通りです。

まず、体操をします。その後にパス練習やドリブル練習をします。次に、レイアップやゴール下のシュート練習です。最後は三対三や五対五などの実せんに近い練習をしています。

本城小学校の最近の成績です。平成二十八年の大会では、男子が二位、女子が一位になりました。平成二十七年度は、男子が三位、女子が一位とすばらしい成績をおさめています。

バスケットボール部に必要なことはチームワークです。部活動の参加者四十人に、「勝つために必要なことは何か」を聞いたところ、約九十パーセントの人がチームワークと答えました。チームで作戦を立て、勝利を目指して、力を合わせることが大切なのです。またそれが、他の運動部活動とはちがうみ力なのでしょう。

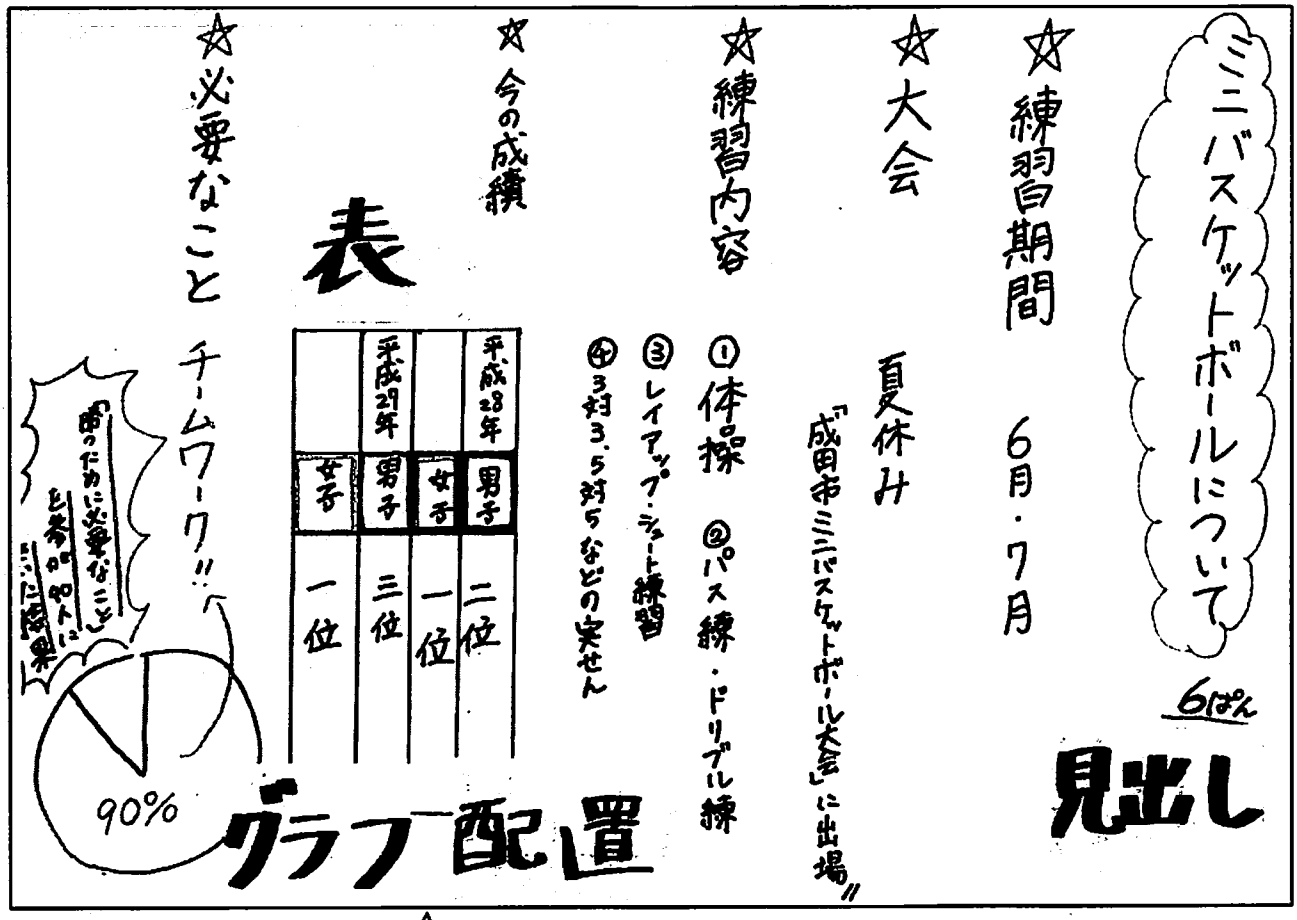
〈本城小のバスケットボール部について〉
・中心を探せるように「1つ目・2つ目・3つ目」という項目は立てない。
・グラフや表を作ることができるように過去の成績やバスケットボールに対するアンケートの結果数値がある。

（2）単元の流れ

①添削用モデルの書き換え（グループ）→②添削用モデルの書き換え(個人)→
→③自分のパンフレット→④他校との交流

**①添削用モデルの書き換え(グループ)**

添削用モデルから分かりやすく，読みたいと思われるパンフレットにするための書き表し方をグループで考える。４～５人グループになり，３つの添削用モデルのうち１つを書き換える活動。書き換えた後，学級全体で共有し，割り付けの工夫のポイントを考えた。




【全体で考えた割り付けの工夫】
①見出しをつける
②伝えたいことの中心にスペースをさく
③図や写真を入れる
④配置を工夫する

②添削用モデルの書き換え(個人)

## 本城小の収穫祭について

★時期　十月中旬

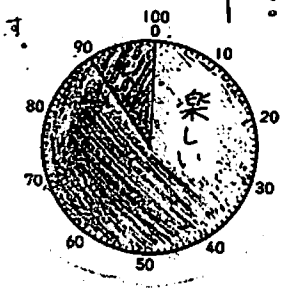
★場所　学校の畑

★収穫物　さつまいも

★一つ目のみカは、楽しいということです。参加した二十人の人に聞いた結果、グラフ①のようになりました。グラフを見るとれ十パーセントの人が楽しいと答えていました。

★二つ目のみカは、重さコンテストです。各班でとれた一番大きいさつまいもの重さを競います。前回の記録は、グラフ②のようになりました。結果発表の時はドキドキします。

グラフ①




| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 2位 | 3位 |
| 7班 | 5班 | 9班 |
| 1250グラム | 1050グラム | 980グラム |

★三つ目のみカは、ほったイモを持ち帰れることです。一人二つずつ持ち帰れます。一年生から順番に取るので班によっては、六年生が三つ持ち帰ることもあります。これが収穫祭についてです。

## ミニバスケットボールについて

★練習期間　六月～七月

★大会　成田市交流ミニバスケットボール大会出場

★練習内容　体操・パス練習・ドリブル練習・レイアップ・シュート練習・二対二、五対五などの実せん練習

写真

写真

写真

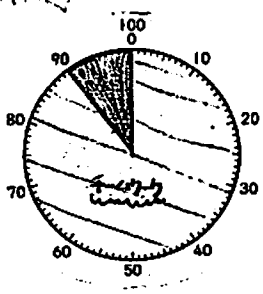
★最近の成績

| | 男子二位 | 女子一位 |
|---|---|---|
| 平成二十八年 | | |
| 平成二十七年 | 男子三位 | 女子一位 |

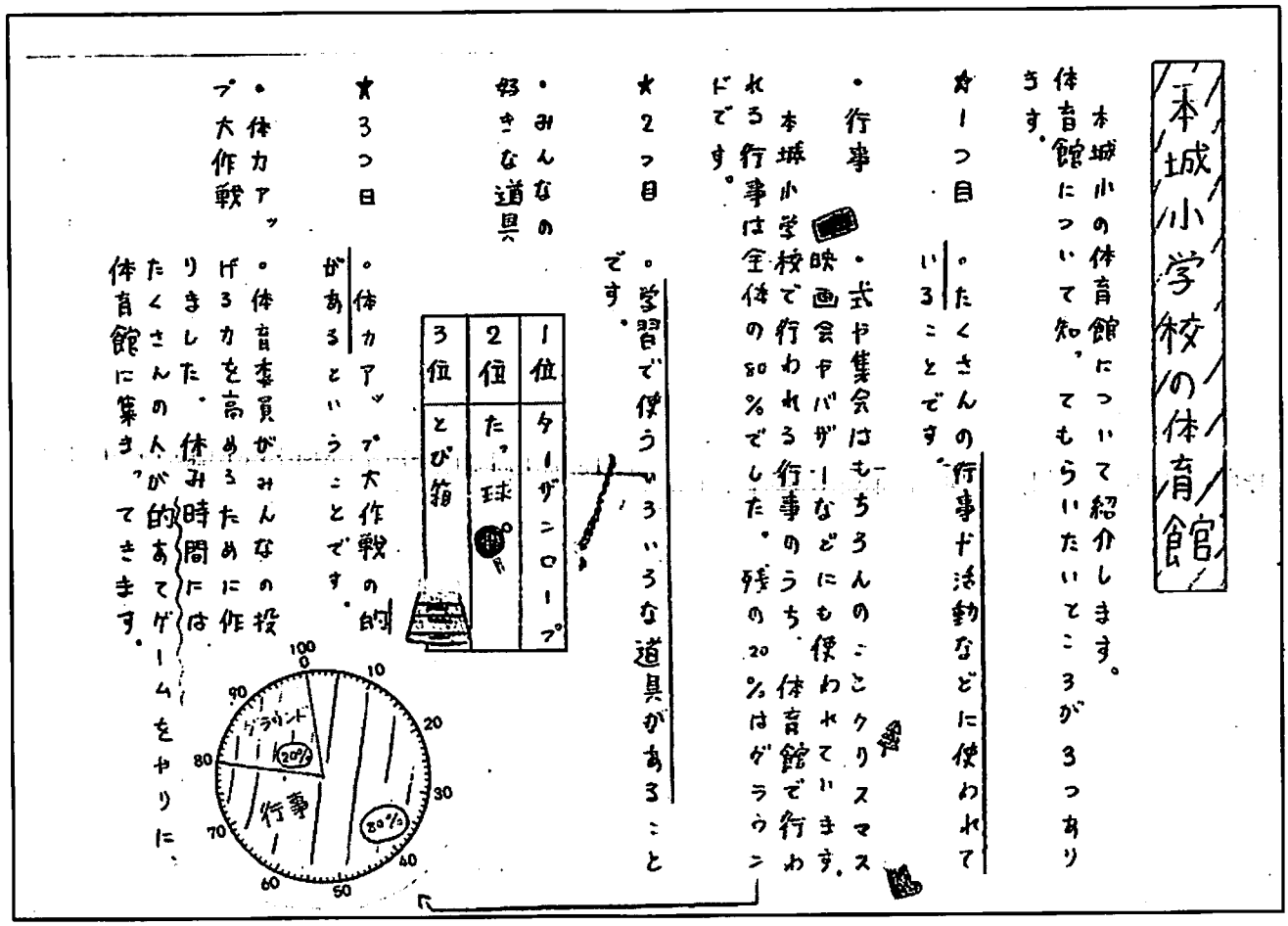
★必要なこと

チームワーク!!

参加者四十人に勝つために必要なことはなにかを聞いた!!




約九十パーセントの人がチームワークと答えた!!



本城小学校の体育館

本城小の体育館について紹介します。体育館について知ってもらいたいところが3つあります。

★1つ目
・たくさんの行事や活動などに使われていることです。
・行事
・式や集会はもちろんのこと、クリスマス映画会やバザーなどにも使われています。本城小学校で行われる行事のうち、体育館で行われる行事は全体の80%でした。残の20%はグラウンドです。

★2つ目
・学習で使ういろいろな道具があることです。
・みんなの好きな道具

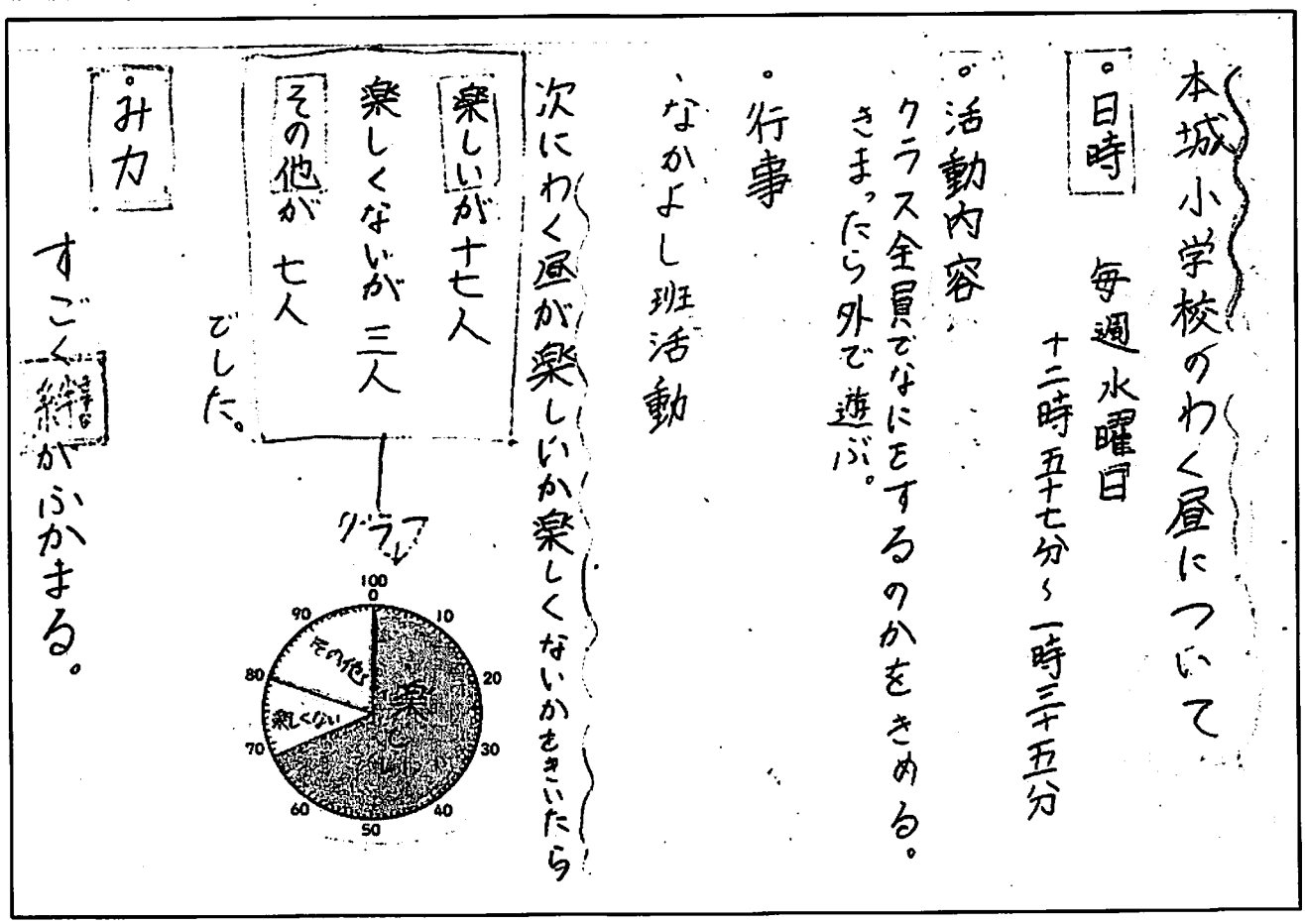
| | |
|---|---|
| 1位 | ターザンロープ |
| 2位 | たま球 |
| 3位 | とび箱 |

★3つ目
・体力アップ大作戦の目的があるということです。
・体力アップ大作戦
・体育委員がみんなの投げる力を高めるために作りました。休み時間にはたくさんの人が的あてゲームをやりに体育館に集まってきます。



③自分のパンフレット

(評価Bの児童)



本城小学校のわく昼について

・日時
毎週水曜日
十二時五十七分～一時三十五分

・活動内容
クラス全員でなにをするのかをきめる。きまったら外で遊ぶ。

・行事
・なかよし班活動

次にわく昼が楽しいか楽しくないかをきいたら

楽しいが十七人
楽しくないが三人
その他が七人
でした。

グラフ



・みり力
すごく絆がふかまる。

**④他校との交流**

完成したパンフレットを遠山小と三里塚小の６年生と交換し，それぞれの学校のよさやパンフレットの書き方を学び合う。

・こんなよさがその学校にはあるのだなあ。
・このパンフレット見やすい。
・自分たちのパンフレットはどう読んでもらえたかなあ。

（３）成果と課題

①各項目の達成度

ア　教師側から見た達成度

完成した作品を教師が見て各項目が作品に表れているか評価したもの

| 割り付けの工夫 ＼ 達成度 | ○ | × |
|---|---|---|
| ①見出しをつける | １８人 | ７人 |
| ②伝えたいことの中心にスペースをさく | ６人 | １９人 |
| ③図や写真を入れる | ２１人 | ４人 |
| ④配置を工夫する | １７人 | ８人 |

イ　児童の振り返った達成度

児童が作品完成後に，各項目が工夫できたか振り返ったもの

| 割り付けの工夫 ＼ 達成度 | ○ | × |
|---|---|---|
| ①見出しをつける | １５人 | １０人 |
| ②伝えたいことの中心にスペースをさく | ７人 | １８人 |
| ③図や写真を入れる | ２１人 | ４人 |
| ④配置を工夫する | １５人 | １０人 |

【達成度からわかること】

・各項目に関して教師側からと児童側との数値の変化はほぼない。
・工夫しやすかったのは「③図や写真」で５学年での学習が活かされている。
・工夫しにくかったのは「②伝えたいことの中心にスペースをさく」であり，書き方の示し方に課題が残った。

②児童の作品から

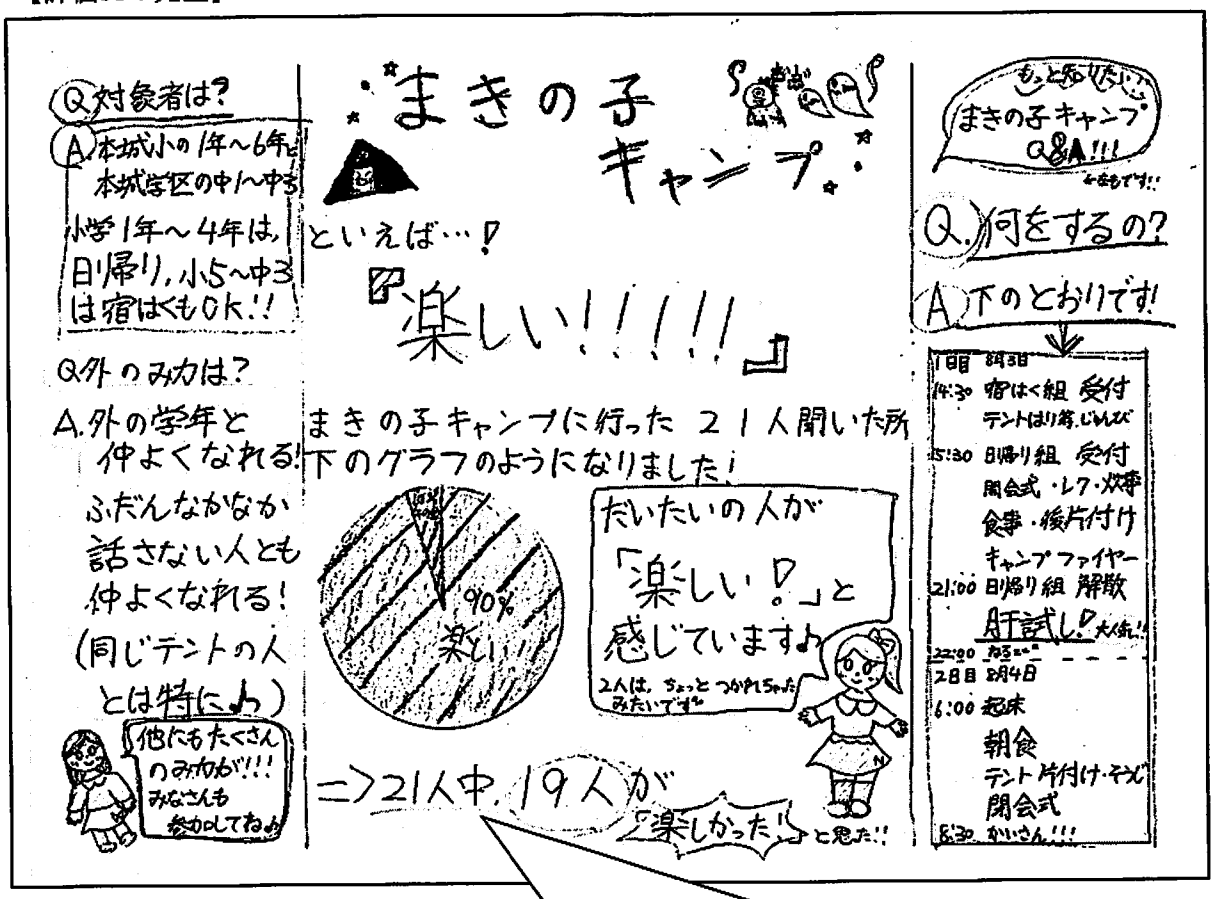
評価の観点　※上記の割り付けの工夫が４項目中いくつ使えているかで評価する。

評価Ａ→効果的に図表やグラフを使ったり，伝えたいことを明確にするために割り付けを工夫したりして書いた。（３／４）

評価Ｂ→図表やグラフを使ったり，割り付けを工夫したりして書いた。（２／４）

評価Ｃ→図表やグラフを使ったり，割り付けを工夫したりして書くことが難しい。（１／４）

【評価Aの児童】




**【割り付けの工夫】**

**①見出しをつける・・・○**

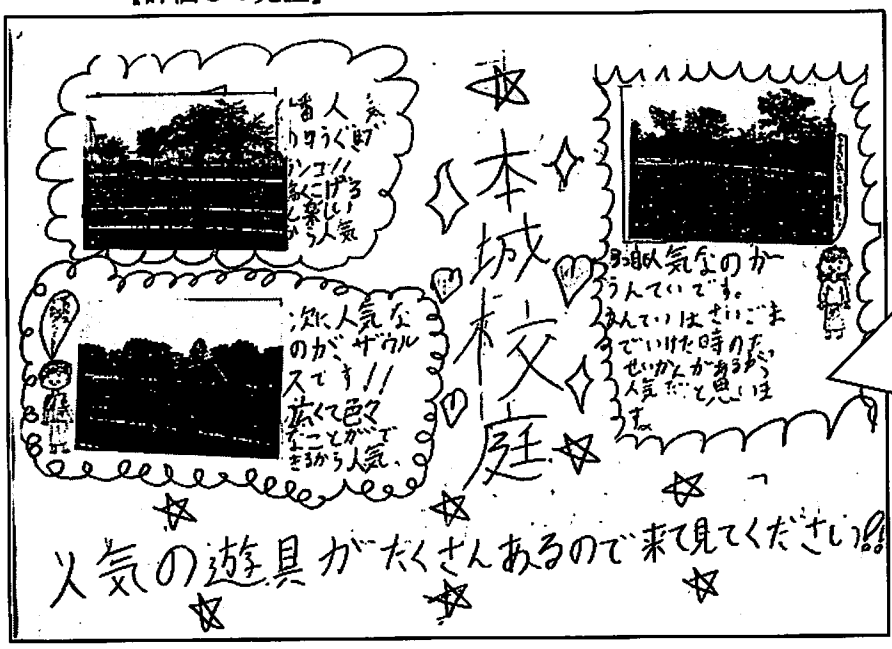
**②伝えたいことの中心にスペースをさく・・・○**

**③図や写真を入れる・・○**

**④配置を工夫する・・・○**　　4／4

全体で確認した時には児童から考えが出なかった②の工夫が使われている。

【評価Cの児童】




**【割り付けの工夫】**

**①見出しをつける・・・×**

**②伝えたいことの中心にスペースをさく・・・×**

**③図や写真を入れる・・○**

**④配置を工夫する・・・×**

1／4

③児童の感想から

〈手本について〉

**4　モデルをつくったことで自分がパンフレットを書くときに，いかされたことは何ですか。**

人から見て-わかりやすくするということがいかされた。わかりやすくするときにいろいろなくふうをすることがわかった。

**4　モデルをつくったことで自分がパンフレットを書くときに，いかされたことは何ですか。**

・配置や見出しのくふうや図や写真の使い方をあらためて知ることができたこと。

・添削用モデルを書き換えることで，自分のパンフレットを作るときに気を付ける割り付けの工夫が分かった。
・添削用モデルがあったことで書き方の工夫に気付き，自分のパンフレットに活かすことができた。

〈学習を終えて〉

**5　学習を通してできるようになったことを書きましょう。**

○より、どうしたら読もうと思うか、考えて書くか。

**5　学習を通してできるようになったことを書きましょう。**

わかりやすく工夫できたりした
表や図、写真などがあることで、とても分かりやすくなった。
大事なところを線を引いたりするようになった。

**5　学習を通してできるようになったことを書きましょう。**

パンフレットなどつくるとき、あまり迷わずに作ることができるようになった。

・人に読んでもらうための工夫を考えながら学習を進めることができた。
・読みたくなるようなパンフレットを作れるようになり，自信がついた。

（例２　書くことが得意な児童の例）省略あり

校外学習

六月二十五日に校外学習がありました。行った場しょをしょうかいします。

はじめに七時十分にしゅごうして男子れつ。女子れつになって出発しきをしました。おわったらバスにのりました。バスの色は赤色です。のった時、わたしは、「どんなけしきが見えるんだろう。わくわくするなあ。」と思いました。

バスが出発しました。わたしのとなりの人は左はたいちくんで、右はそらちゃんとるかちゃんでしゃしんをとります。そして、台がある場しょでねてみたり、おにごっこをしました。楽しかったです。

それから、電車にのって、一組は先にぬれせんべい作りをして、二組はおべんとうを食べます。

電車からおりて、バスにまたのりました。

バスをおりて、おそばやに入りました。ぬれおせんべいを作りました。作り方は、お米で作った丸くてつるつるしたあみにのせてやきます。すぐひっくりがえして、ふくらんできたらそこをおしてひっくりがえして、かたまったら二十秒まってひっくりがえしてやけてきたらあみからおせんべいをとってあじをつけます。うす味とあまくちがありました。わたしはうす味をつけました。おいしかったです。

そのつぎに、ちょうしでんてつにのっておべんとうを食べました。

先生が、「十分で食べてください。」と言われたのでいそいでたべました。おべんとうはたべられたりれておかしはたべられなかったです。

さいごに、ヒゲタ正油工場に行きました。小さいたて物に行って正油ができるまでのどうがを見ました。おわったら大きいたて物に行って正油を作っているようすを見ました。そしていっぱい正油がかざられているたて物にいって帰りに正油をもらいました。本じょう小に帰ってとうちゃくしきをやって家に帰りました。

今日はとても楽しかったです。

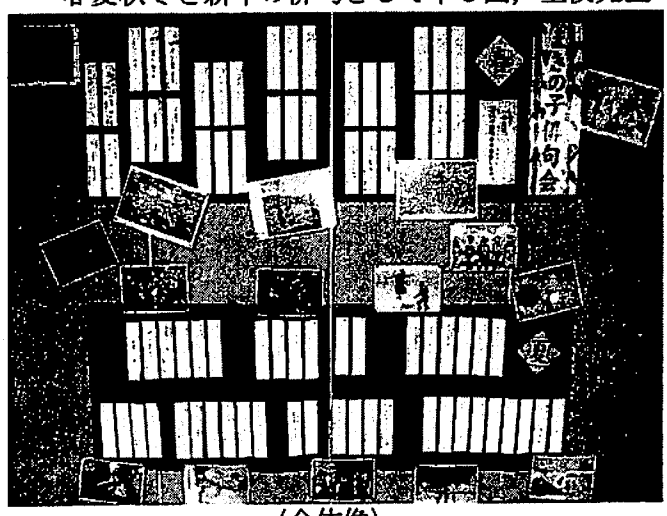
- 原稿用紙５枚もの作文になった。
- 言葉を自分で付け足している。
- 文章の流れに沿った接続詞に直している。

⇩

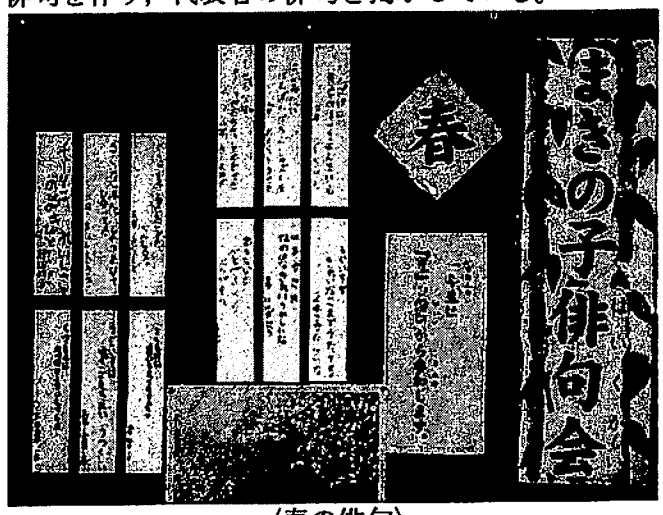
- 自分の思いが表現できるようになってきた。
- 言葉の使い方に慣れて，書く文量が増えてきた。

（3）俳句コンテスト

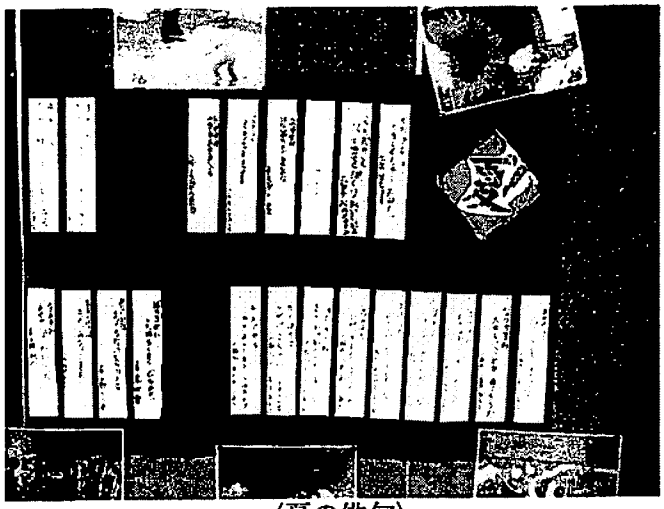
春夏秋冬と新年の俳句として年５回，全校児童で俳句を作り，代表者の俳句を掲示している。



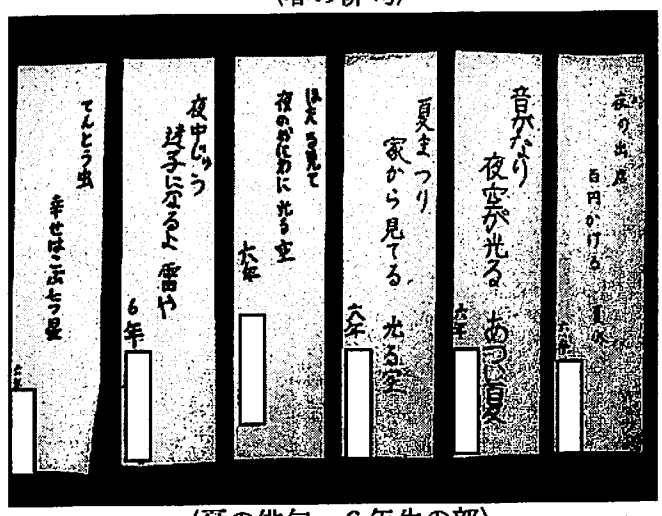
〈全体像〉




〈春の俳句〉




〈夏の俳句〉




〈夏の俳句　６年生の部〉

## Ⅴ　研究を振り返って

自分の思いや考えを表現できる子の育成を目指して研究を進めてきた。モデルを使った書き方を示す授業実践を行うことで，苦手意識が強い児童にも，書く活動への意欲付けを図ってきた。まず，児童への手立てを振り返ると，本校の実態に合わせて，支援の必要な児童に向けての授業実践を行い，その児童に対しては的確な支援を行うことができたと考える。しかし一方で，書くことが得意な児童に対する手立てを用意しておく必要があったと考える。手本をモデルとして意識させすぎたため，自分の思いを自由に表現できる可能性を摘んでしまったようにも思える。児童によっては要点だけ押さえた手本でも十分であったのではないかと考える。

次に書き方の提示の仕方について振り返ると，発達段階に応じた３つの提示の仕方「低学年は教師の自作資料（手本）から書き方を学ぶ」「中学年は教師の自作資料（手本）から書き方の特徴をつかみ，自分の作品に活かす」「高学年は教師の自作資料（添削用）から課題を見付けて訂正することで，自分の作品に活かす」は有効であったと考える。学校として手本の提示の仕方に段階を作り，実践できたことは国語科の「書く」の指導において共通理解が図られた。また，児童にとっても次学年での「書く」学習に取り組みやすくなったのではないかと考える。今回示した授業実践における図鑑やパンフレットを含めて，この実践を通して身に付けた「書き方」が，他の学習や生活場面でも自ら活かせるよう，引き続き授業の工夫，改善を図っていきたい。